

米国カリフォルニア州 生食用ブドウの収穫が終了、冷蔵在庫が減少

[The Grape Reporter 2025年12月12日](#)

カリフォルニア州の生食用ブドウの収穫は、例年より1週間早く、感謝祭直後(11月下旬)の第48週に終了した。カリフォルニア州の生食用ブドウ生産事業者パンドルプラザーズ社の特別プロジェクトディレクターであるジョン・パンドル氏によると、これはやや前倒しではあるが、近年の収穫期と比べて特別に大きな差ではない。

しかし、カリフォルニア州の生食用ブドウシーズンの進行の速さは、冷蔵在庫においてより顕著に表れている。米国農務省(USDA)が12月4日に発表した[最新のデータ](#)によると、第48週の冷蔵在庫は約350万箱で、これは850万箱超と報告された第46週(11月中旬)から59%もの減少であり、2024年の同時期の同州の在庫と比べても30%少ない。

品種別の内訳も芳しくない。第46週から第48週の15日間で、オータムキングは65%減少して約78万箱となり、レッドグローブは90%近く減少してわずか6,600箱に落ち込んだ。同期間にスイートグローブの在庫は502箱に減少し、グレートグリーンは86%減少して2万337箱となった。

カリフォルニア州の残りの生食用ブドウの状況

業界情報プラットフォームのプロデュースアライアンスは、12月11日に発表した最新の週報において、現在主にカリフォルニア州産生食用ブドウに依存している市場に対し「深刻な」警告を発した。報告書は、感謝祭後の強い需要による「貯蔵果実の供給の急速な枯渇」を指摘し、残りの在庫の品質にも疑問を呈した。

報告書は「現在残っているカリフォルニア州産ブドウは、鮮度が落ちるにつれて、脱粒、水ぶくれ、場合によってはカビや果房内部のつぶれ等の品質問題がより顕著に現れ、棚持ちも悪くなる」と記している。

同プラットフォームはバイヤーに対し、緑系ブドウの不足の可能性に注意を促し、チリとペルーからの輸入開始が年明け以降になる見込みであるため、今後2~3週間は赤系ブドウへの代替を推奨しており、さらに「十分な量は期待できず、不安定な市場が早ければ年明けから、おそらく第2週まで続く」としている。

チリは既に今季の米国向け生食用ブドウ輸出を9%削減すると発表している。この減少は、今シーズンの収穫量がやや少ない見込みであること及びシステムアプローチによる米国向け輸出の停止に起因するものと見られる。パンドル氏は、FreshFruitPortal.com(本サイトの親サイト)に対し、当初はペルーもチリに追随し、関税の影響に対応して米国向けの初期の出荷量を減らすのではないかとの憶測があったが、そのような動きは見られないと説明し、「弊社のデラノ市(カリフォルニア州カーン郡)の冷蔵倉庫では、カリフォルニア州産ブドウは誰も見たことが無いほどわずかしかなく、ペルー産ブドウのほうが多い」と述べている。

冷静さを呼びかけ

パンドル氏によると同社は第47週末(11月下旬)にカリフォルニア州の生食用ブドウの収穫を終え、同社内の最後の梱包は今週中に完了する見込みである。しかし同氏は、カリフォルニア州の生食用ブドウシーズンには遅い時期の大規模な出荷も含まれており、生産者は「依然として梱包施設で活発に箱詰めを行っている」として、バイヤーらに対しパニックにならないように呼びかけている。

同氏はまた、USDAの報告書の数値に疑問を呈し、その他の白系品種のカテゴリーが「極端に少なすぎる」と指摘し、「報告日から10日が経過しているが、晩生の白系品種が多い梱包施設では、今多くの人々が働いている」と述べた。

カリフォルニア州の生食用ブドウの出荷シーズンの裏で販売努力は継続しており、果実は米国内の小売店に加え、ニュージーランド、カナダ、香港、台湾、インドネシア、マレーシア、シンガポール、ベトナム、メキシコ、コスタリカ、エルサルバドル及びグアテマラ等の市場でも販売されている。